

	<p>九、關係造兵監督官及監督助手 ニ關スルコト</p> <p>十、關係造兵學生、生徒ノ教育 ニ關スルコト</p> <p>十一、關係造兵科士官以下ノ教育 及本務ニ關スルコト</p> <p>十二、技術會議ノ議案及統計年報 材料ニ關スルコト</p>	
--	--	--

第二項 地方關係官廳

明治三十年五月海軍造兵廠條例ヲ定メラル、廠ハ吳軍港及東京ニ置キ各其ノ所在地ヲ冠稱シ吳ハ吳鎮守府司令長官ニ東京ハ海軍大臣ニ隸シ製造科、検査科、會計課及軍醫ヲ置キ従前ノ海軍造兵廠條例及吳兵器製造所條例ヲ廢セリ

明治三十五年五月新ニ海軍兵器廠條例ヲ定メ各軍港(吳ヲ除ク)ニ之ヲ置キ其ノ所在地名ヲ冠稱シ廠長ハ鎮守府艦政本部ニ隸ス廠ニ砲銃庫、水雷庫及工場ヲ附屬ス

斯クテ本條例ノ下ニ數年間ヲ經過シ三十六年一月ニ入り海軍工廠條例ノ制定ヲ見タリ條例ノ要旨左ノ如シ

一、各軍港ニ海軍工廠ヲ置ク、海軍工廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

二、海軍工廠ハ當該鎮守府ニ屬シ艦船及兵器ノ製造修理及繕裝並ニ兵器ノ保管供給ニ關スルコトヲ掌リ又艦營需品ノ調辨供給ヲ掌ル所トス

吳海軍工廠ニ於テハ前項ノ外製鋼ノ事業及火藥試驗ニ關スルコトヲ掌ル

三、海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ廠務ヲ總理ス但シ技術上ノ事ニ關シテハ海軍艦政本部長ノ區處ヲ受ク

四、海軍工廠ニ造兵部、造船部、造機部、會計部、兵器庫及需品庫ヲ置ク

吳海軍工廠ニハ前項ノ外製鋼部及火藥試驗場ヲ置ク

五、造兵部ニ於テハ兵器ノ新製改造及修理ニ關スル事業ヲ掌ル

六、兵器庫ニ於テハ兵器ノ保管供給ニ關スルコトヲ掌ル

明治四十三年一月吳海軍工廠造兵部ヲ廢シ代フルニ砲煩部、水雷部ノ新設ヲ以テスルニ至リ水雷兵器ノ製造ハ爾來其ノ面目ヲ一新スルノ端緒ヲ拓ケリ水雷部新設ノ理由ハ當時ニ於ケル吳造兵部ノ作業頗ル繁多ニシテ將來ニ亘リ其ノ弊ヲ加フベキコト明カナリシガ爲各専門的ニ部門ヲ分チ各其ノ本務ヲ行フハ從來ノ經驗ニ照ラシ優レルヲ認メタルニ由ル條文ニ掲ゲラレタル關係事項ヲ摘記セバ左ノ如シ

一、海軍工廠條例中

水雷部ニ於テハ水雷及應用電氣ニ關スル事業ヲ掌ル

二、海軍工廠處務細則中

水雷部ニテハ左ノ事務ヲ掌ル

(一) 水雷及其ノ屬具並ニ電氣器具ノ製造圖、製造方法書、製造説明圖、制式圖案調製及其ノ工事ニ關スル入費概算等ノ調製ニ

關スルコト

- (一) 水雷及其ノ屬具竝ニ電氣器具ノ設計、構造、製造、改造、修理、裝備試驗ニ關スルコト
- (二) 內國私立工場ニ依托セル水雷及其ノ屬具竝ニ電氣器具ノ工事監督ニ關スルコト
- (三) 水雷及其ノ屬具竝ニ電氣器具ノ授受及其ノ整理ニ關スルコト
- (四) 所屬工場ノ造修工事ニ關スルコト
- (五) 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ整備ニ關スルコト
- (六) 所屬工場ニ屬スル機械物品等ノ保存期限及入費概算ニ關スルコト
- (七) 未成艦ニ裝備シアル水雷及其ノ屬具竝ニ電氣器具ヲ保管スルコト

大正十二年四月一日軍縮善後施設ノ一端トシテ吳海軍工廠ニ魚雷實驗部ヲ橫須賀海軍工廠ニ機雷實驗部ヲ設ケ専ラ各當該兵器ノ實驗研究ニ任セシメラレタリ

魚雷實驗部ノ所掌細目左ノ如シ

- 一、魚雷關係兵器及其ノ屬具竝ニ材料ノ實驗研究ニ關スルコト
- 二、所屬工場及其ノ機械、工具竝ニ検査具類ノ整備、入費概算及保存期限ニ關スルコト
- 三、所屬建築物ノ新築改更ニ伴フ一般計畫ニ關スルコト
- 四、所掌事項遂行上必要ナル重要書類及規程類ノ整備ニ關スルコト
- 五、所屬職工及雇員傭人ノ維持竝ニ増減給ニ關スルコト

機雷實驗部ノ所掌細目左ノ如シ

- 一、機雷、掃海及潜水艦防禦網關係諸兵器竝ニ其ノ屬具及材料ノ實驗研究ニ關スルコト

二、以下魚雷實驗部ノ二以下ニ同じ

之等實驗部ノ所掌ハ多少ノ變改アリシモ特記スベキモノナク今日ニ及ベリ

大正十五年四月一日吳海軍工廠ニ新ニ電氣部ヲ置カレ從來水雷部ニテ掌リシ電氣關係事項ヲ擔當シ茲ニ水雷部ノ負擔ヲ著ルシク輕減シ得タリ

本制度ノ改定即チ在來ノ水雷部ヨリ電氣關係事項ヲ分離シ更ニ電氣部ヲ設ケラレタル由來ニ就テハ當時及過去ニ於ケル水雷對電氣ノ關係因縁ヲ諒得スルニ便ナルヲ思ヒ左ニ本制度提案理由ノ全文ヲ記シ參考ニ資ス

電氣部新設ヲ必要トスル理由

往年吳工廠水雷部ガ造兵部ヨリ分離獨立セシ時代ハ電氣兵器ノ種類技術事業並ニ用兵上ノ要求共ニ極メテ單純ニシテ工事費亦極メテ小額ナリシヲ以テ電氣水雷ヲ一團トセル機關タラシムルハ蓋シ時代相應ノ處置ナリシモ爾來十五年ヲ經過シ今ヤ電氣兵器ノ種類應用ハ愈々複雑トナリ探照燈電氣信號兵器、水中空中聽音器、發電機電動機、二次電池、砲戰、水雷戰共ノ他各科通信器、方位盤射擊兵器、無線及有線電信電話、航空電氣兵器等分業専門的ニ發展シ特種ノ研究計畫指導ヲ要スベキモノ極メテ多ク吳工廠電氣事業ハ愈々擴大セラレ職工ハ優ニ二千ヲ超ヘ事業費二百五十萬圓ヲ消化スル大舞臺トナレリ

然ルニ我電氣兵器ノ沿革ヲ技術的ニ見レバ獨創的考案發明ハ殆ド無ク亦改良進歩遲々トシテ振ハズ數年後レタル列國ノ兵器ニ追隨シツツ而カモ故障類々タル現狀ニシテ日常使用スルモノストラ尙自給自足ヲ得ザルモノナリ將來ノ戰爭ガ科學戰ニ在リ特ニ電氣應用ノ發要缺クベカラズ而カモ一瞬時ノ故障停電モ實ニ艦ノ運命ヲ左右スルモノアルヲ想ハバ之ガ發展策ヲ講ジ科學兵器進歩ノ均衡ヲ圖ルニ躊躇スルモノナカルベシ而シテ立遅レ且ツ沈滞セル我軍用電氣工業ノ挽回策トシテハ茲ニ技術上縱斷的獨立機關ヲ組織シ獨立セル豫算ノ下ニ當事者ヲシテ全幅ノ努力ヲ傾注セシメテ權威アル技術ノ中心ヲ成サシムルニ在リ即チ之ガ爲最モ有効ニシテ且

ツ捷速ナルハ吳工廠電氣工場ノ獨立ヲ措イテ他ニ之ヲ求ムベカラズ即チ電氣智識ヲ有スル部長監督ノ下ニ工務主任部員團欒一意専門の工業ノ研究管理ニ從事シ以テ計畫製造ノ技術者養成ニ遺憾無カラシメ實力ニ於テ民業ノ指導監督ヲ爲シ得ルニ適セシムルハ目下ノ急務ナリト信ス

五〇

技術上電氣工業ハ水雷工業ト何等縁類無キノミナラズ前者ハ多種多様ノ極端ナル分業的ニシテ而カモ修理艱装ノ外工事多ク後者ハ多量生産的ノ内業ヲ主トスル等工務雑務ニ於テ大ニ趣テ異ニスルヲ以テ兩者ヲ同一部ニ管理スルハ相互ニ不便ニシテ事業費ノ整理事務簡捷ヲ期スルノ途ニアラズ尙電氣工業ヲ水雷工業ニ對シ從屬的地位ニ併合シ置クハ電氣工業ノ技術向上能率増進上甚シキ支障アリ

要スルニ此際吳工廠水雷部ニ於ケル電氣工業ヲ分離獨立セシムルハ之ガ進歩發達上焦眉喫緊ノ施設ニシテ然カモ吳工廠水雷部ハ水雷、電氣兩系ニ劃然整理作業セラレ居ルヲ以テ電氣部ヲ分離獨立セシムルモ何等施設及増員ヲ要セザル現狀ニ在リ以下少シク反覆詳說セントス

一、事業費ノ整理節約ヲ期ス

〔編者曰 詳細ノ説明記載ハ之ヲ略ス、以下同ジ〕

二、權威アル技術ノ中心ヲ作り電氣工業發展ノ基礎トス

三、技術者ノ向上發展ヲ期ス

四、電氣實驗部トノ關係一層良好トナルベシ

五、水雷部ノ一部タルハ兩者互ニ不便ナリ

電氣兵器及兵装ハ技術上根本的ニ水雷工業ト異ルハ勿論其ノ艦政工務上ニ於テモ亦左記ノ如ク差異大ナリ從ツテ工場管理、工事費整理、工務雑務等微細ニ亘リ趣テ異ニスルヲ以テ分離ハ兩者ノ利益且能率増進ノ途ナリ

記

(1) 水雷工業ノ如ク單純ナラズ無線電信電話、通信、動力、照明、電池艦船艱装計畫工事等凡テ専門的區分多シ從ツテ機械

仕上組立其ノ他一般職工ノ外電氣工ノ種類ハ無線、動力、照明、通信等各種専門、分科的ニ多種類ニ渉ル

(ウ) 各部類ノ兵器ハ極メテ多數ノ制式アリ其ノ種類三千餘ニ上リ總テ製造工業ハ水雷ト趣テ全然異ニシ小價格多種類ナリ從テ整理監督單純ナラズ

(カ) 水雷ハ内業ヲ主トシ大口新製品多キモ電氣ハ内業ノ外、艦船修理工事甚ダ多ク修理及外業職工之ニ伴フテ多シ從ツテ工場ノ統御管理上趣テ異ニス

(終)

先ニ三十年五月創制ノ東京海軍造兵廠ハ爾後部分的小改變ヲ經來リシガ大正十二年四月一日ヲ以テ海軍技術研究所ト改メラレ海軍技術ノ研究、調査及諸種ノ技術的試験ニ關スルコトヲ掌リ尙必要ニ應ジ兵器及材料ノ製造及修理ヲ爲サシメラル而シテ其ノ一部タル科學研究部ニ於テハ砲熯、水雷、航海、光學、化學各兵器及機關ニ關スルコトヲ掌リ水雷術ニ關シテハ依然關聯ヲ保持ス蓋シ本研究所以創始ハ海軍技術ヲ發達セシムル爲從來ノ研究機關ヲ統一整理スルノ要アルニ依レリ終ニ地方(鎮守府)ニ於ケル艦政諸機關ニ就キ瞥見スルニ大略左ノ如シ

各鎮守府必ズシモ一様ナラズ主トシテ横須賀鎮守府ヲ採ル又要港部ニ就テハ特記スベキモノナシ

明治十七年十二月 横須賀鎮守府ノ開廳ト共ニ武庫ヲ置ク

十九年四月 兵器部ヲ置キ其ノ下ニ武庫及各地分庫ヲ置ク

二十六年五月 武庫及水雷庫トナル

三十年十月 再ビ兵器部ヲ置キ其ノ下ニ砲銃庫及水雷庫ヲ置ク
 三十三年五月 鎮守府ニ艦政部ヲ置キ其ノ隸下ニ海軍兵器廠(海軍工廠ノ前身)ヲ屬シ、兵器廠ノ一部トシテ砲銃庫、水雷庫等ヲ配ス
 三十六年十一月 海軍工廠ノ出生ト共ニ特種機關一時中絶ス(廠下ニ需品庫ナルモノアリ)
 四十二年四月 海軍工廠ノ隸下ニ兵器庫ヲ置キ大正十二年ニ至ル
 大正十二年三月 鎮守府隸下新ニ海軍軍需部ヲ置キ軍需品ノ準備、保管、及供給ニ關スルコトヲ掌ルコトトナレリ

(備考)

- 一、地方關係工作廳ノ大宗タル吳海軍工廠水雷部ノ沿革及業績ノ一般ハ備考文書ニ掲記セリ
- 二、火藥爆藥關係諸官廳官制ニ就テハ別ニ第六編第十章ニ於テ其ノ大要ヲ併記セリ
- 三、主要艦政工作關係諸官廳沿革別表ノ如シ

(別表)

艦政本部	技術研究所	吳工廠	横須賀工廠
明治元、一〇、一九 東京軍務局出張所ヲ置ク 二、一、二〇 兵部省東京出張所ヲ兵部省本衛ト爲ス 三、一〇、一〇	明治八、五、八 海軍省兵器局ノ下ニ兵器製造所ヲ置ク 一九、一、二九 海軍省ノ下ニ海軍兵器製造所ヲ置ク	明治一七、一、二五 小野濱海軍造船所ヲ置ク 二三、三、二七 吳鎮守府小野濱分工場トナル 二九、四、七 假吳兵器製造所ヲ置ク	慶應元、二 幕府造船所創立ニ着手ス 明治元年 政府所管トナル 四、二、四 横須賀造船所ト改稱

<p>海軍掛ヲ置ク 四、二、四 造船局ヲ置ク 五、二、二七 海軍造船局ト改稱 九、八、三一 海軍省主船局トナル 一九、一、二九 海軍省艦政局トナル 二二、三、九 海軍省第二局トナル 三〇、四、一 軍務局所掌ニ移ル 三三、五、二〇 海軍艦政本部創設 （一、二、三、四部） 大正四、一〇、一 海軍技術本部令制定 五、四、七 艦政局 設定 九、一〇、一 海軍艦政本部令再定 （一、七部） 一二、四、一 同 一、一五部 昭和二、四、五 同 一、一四部 三、三、一 同 一、一五部</p>	<p>三〇、五、二〇 造兵廠條例發布 大正一二、四、一 海軍技術研究所令發布</p>	<p>三〇、五、二〇 造兵廠條例發布 三六、一、一〇 工廠條例發布 （造兵、造機、造船） 四二、四、二八 火藥試驗所追加 四三、一、一五 砲熯部、水雷部追加 大正一二、四、一 砲熯實驗部、魚雷及電氣實 驗部追加 大正一五、四、一 電氣部ヲ新設シ電氣事業ヲ 水雷部ヨリ分離ス 昭和四、四、八 潜水艦部ヲ追加ス 之ヨリ先キ大正九年十二月 臨時潜水艦實驗調査會ヲ置 キシ處之ヲ廢ス</p>	<p>三六、一、一、 工廠條例發布 （造船部、造兵部、造 機部等） 大正一二、四、一 機雷實驗部追加</p>
---	--	---	--